

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2022 年 1 月～3 月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2022 年 4 月

宮 城 県 商 工 会 連 合 会

中小企業景況調査報告書

2022 年 1 月～3 月

[調 査 要 領]

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名 取 市 商 工 会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、
利府松島商工会、くろかわ商工会、加 美 商 工 会、
遠 田 商 工 会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、
石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 9 企業

2. 調査対象期間

2022 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は 2022 年 3 月 1 日とした。

3. 調 査 方 法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 3
建 設 業	2 5
小 売 業	4 3
サービス業	4 8
合 計	1 4 9

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(2022年1月～3月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期と同じ△34.0(前期△34.0)と横ばいだった。産業別では、製造業が△36.4(前期△39.4)と3.0ポイント改善、建設業では△20.0(前期△20.0)で横ばい、小売業は△45.2(前期△53.6)と8.4ポイント改善、一方、サービス業は△29.8(前期△20.9)と△8.9ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、産業全体(全産業)として悪化の見通しである。産業別では、製造業、サービス業で改善、建設業、小売業では悪化の見通しである。

表一1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業 種	前 期	今 期	来期見通し
全 産 業	△ 34.0	△ 34.0	△ 37.2
製 造 業	△ 39.4	△ 36.4	△ 33.3
建 設 業	△ 20.0	△ 20.0	△ 44.0
小 売 業	△ 53.6	△ 45.2	△ 50.0
サービス業	△ 20.9	△ 29.8	△ 25.0

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が9.1%で前期比3.0ポイント減少、建設業は8.3%と前期比8.3ポイント増加、小売業では14.3%で5.2ポイント増加、サービス業では10.6%と前期比0.2ポイントの増加であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業で増加、建設業、小売業、サービス業では横ばいとなっている。

表一2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業 種	前 期	今 期	来期計画
製 造 業	12.1	9.1	12.1
建 設 業	0.0	8.3	8.3
小 売 業	9.1	14.3	14.3
サービス業	10.4	10.6	10.6

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売 上 額（完成工事額）

2022年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2021年12月調査)と比較して、「製造業が3ポイント悪化のマイナス4、非製造業は3ポイント悪化のマイナス6だった。オミクロン株の感染拡大による活動制限の影響などから、景況感が製造業・非製造業ともに悪化する見込み」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業、建設業、小売業で改善、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・建設業で全国・東北以下、小売業・サービス業では全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 8.3	△ 15.5	△ 13.1	△ 18.2	△ 33.3	△ 30.3
建 設 業	△ 16.3	△ 22.6	△ 17.8	△ 23.9	△ 36.0	△ 24.0
小 売 業	△ 34.4	△ 38.8	△ 44.1	△ 47.0	△ 45.5	△ 37.2
サービス業	△ 26.3	△ 46.0	△ 29.1	△ 48.9	△ 20.9	△ 27.1

② 採 算

宮城の今期の採算D Iも、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業で横ばい、建設業・サービス業で悪化、小売業では改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較でも、製造業・建設業で全国・東北以下、小売業は全国以下・東北以上、サービス業では全国・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 20.3	△ 30.5	△ 26.3	△ 31.4	△ 39.4	△ 39.4
建 設 業	△ 24.4	△ 33.5	△ 27.2	△ 35.1	△ 36.0	△ 40.0
小 売 業	△ 41.0	△ 49.0	△ 49.7	△ 57.2	△ 53.5	△ 51.2
サービス業	△ 32.2	△ 49.8	△ 39.8	△ 53.1	△ 29.2	△ 35.5

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2022年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で3.0ポイント改善、建設業で△16.0ポイント悪化、小売業で△9.3ポイント悪化、サービス業では8.4ポイント改善の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでも、今期状況D Iとの比較で、製造業で3.0ポイント改善、建設業で△4.0ポイント悪化、小売業で0.1ポイント改善、サービス業でも4.2ポイント改善の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城共に改善、採算でも全国・宮城で共に改善の見通しとなった。建設業では売上は全国・宮城共に悪化、採算では全国でほぼ横ばい、宮城で悪化の見通しとなった。小売業では売上が全国で改善、宮城で悪化、採算では全国・宮城で共に改善の見通しとなった。サービス業では売上が全国・宮城で共に改善、採算でも全国・宮城で共に改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 15.5	△ 11.4	△ 30.3	△ 27.3
建 設 業	△ 22.6	△ 27.9	△ 24.0	△ 40.0
小 売 業	△ 38.8	△ 32.5	△ 37.2	△ 46.5
サービス業	△ 46.0	△ 27.9	△ 27.1	△ 18.7

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 30.5	△ 25.0	△ 39.4	△ 36.4
建 設 業	△ 33.5	△ 33.3	△ 40.0	△ 44.0
小 売 業	△ 49.0	△ 41.5	△ 51.2	△ 51.1
サービス業	△ 49.8	△ 36.8	△ 35.5	△ 31.3

2. 県下産業別の景況

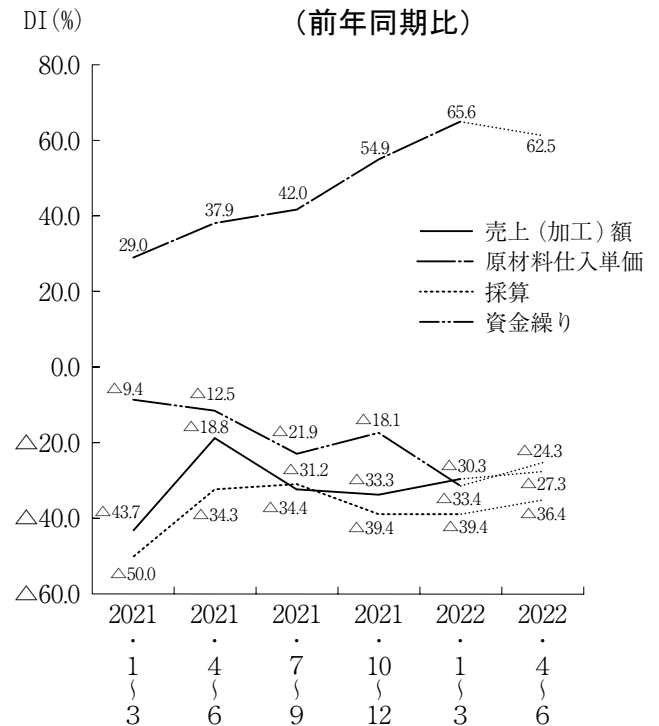
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△30.3（前期△33.3）となり3.0ポイント前期より改善、採算D Iでは今期△39.4（前期△39.4）で横ばい、資金繰りD Iでは今期△33.4（前期△18.1）で△15.3ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期 65.6（前期 54.9）と10.7ポイント上昇した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



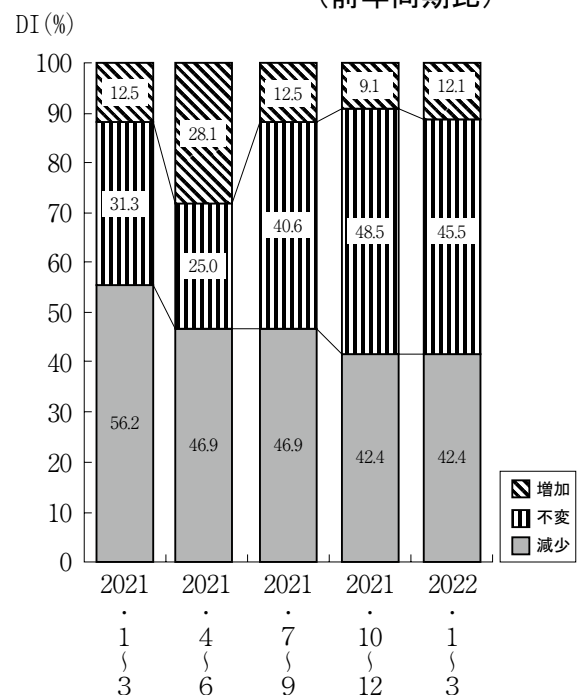
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工) 額

「増加」と回答した企業は、全体の12.1%（前期9.1%）と3.0ポイント増加、「減少」と回答した企業は42.4%（前期42.4%）と横ばいとなった。

その結果、売上（加工）額D Iは△30.3（前期△33.3）となり前期比3.0ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

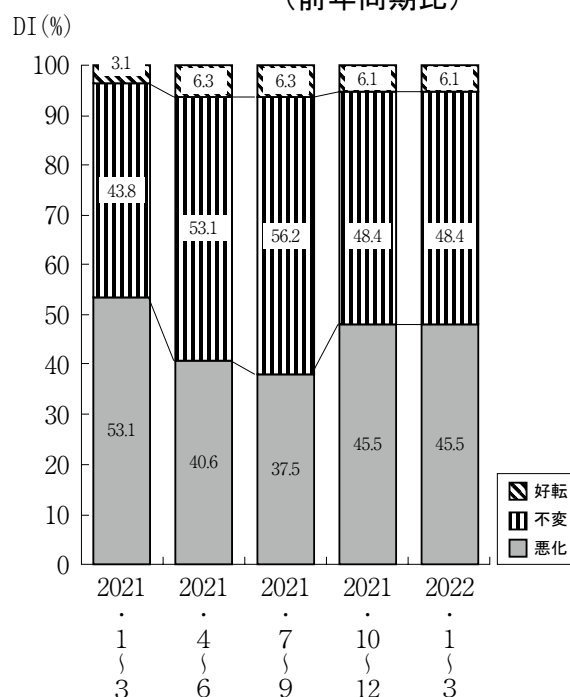


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 6.1% (前期 6.1%) で横ばい、また「悪化」と回答した企業も 45.5% (前期 45.5%) で横ばい。

その結果、採算 D I は△39.4 (前期△39.4) で横ばいとなった。

図 1-3 採算の状況
(前年同期比)



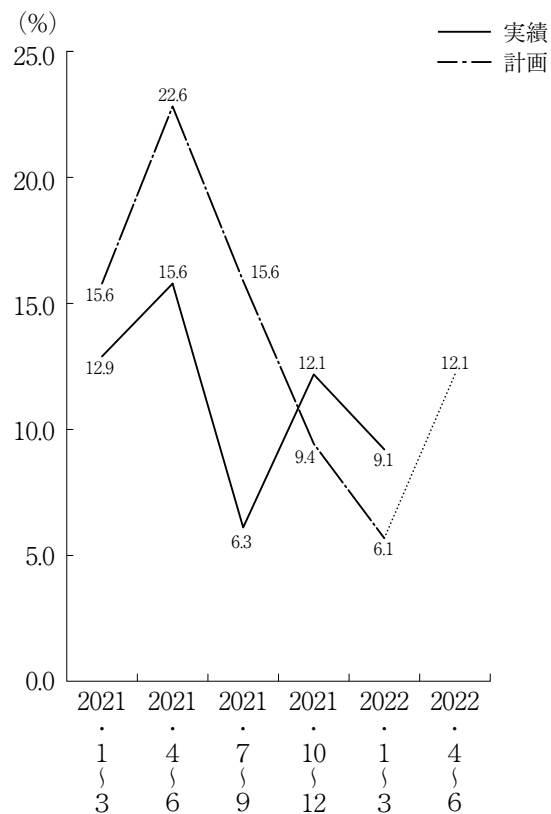
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 9.1% (前期 12.1%) で、前期と比べ 3.0 ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、OA機器、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.1% で、その設備内容は、生産設備、OA機器となっている。

図 1-4 設備投資の状況

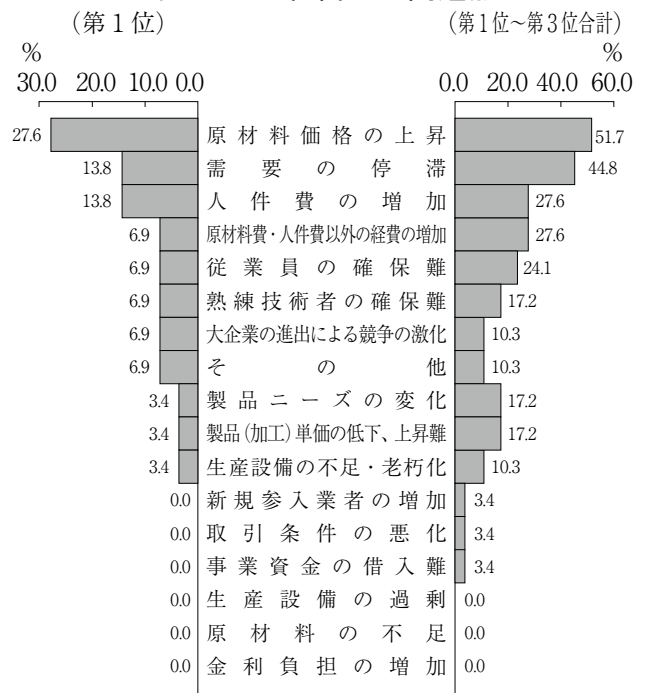


(d) 経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「原材料価格の上昇」で 27.6%、次いで「需要の停滞」と「人件費の増加」が同率 13.8%で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では「原材料価格の上昇」が 51.7% (複数回答合計、以下同じ) で最上位、次いで「需要の停滞」が 44.8%、「人件費の増加」と「原材料・人件費以外の経費の増加」が同率 27.6%で続いた。

図 1-5 経営上の問題点



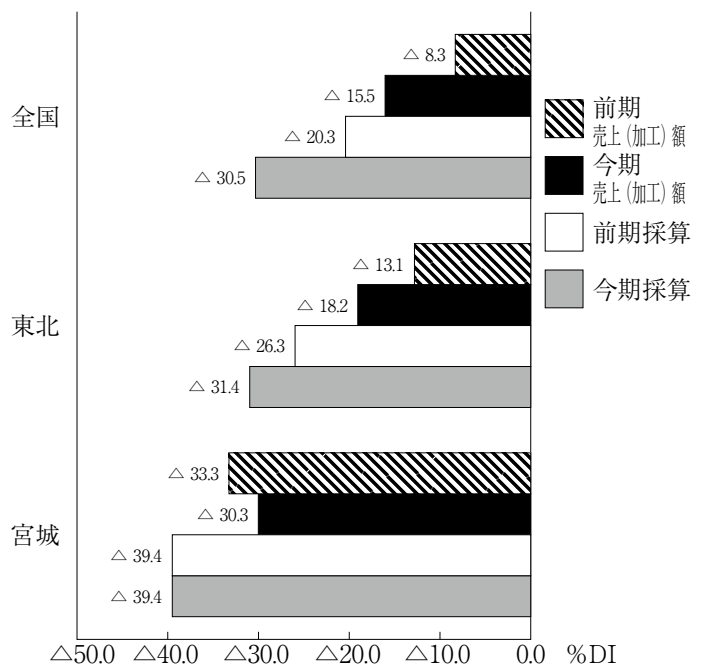
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額D I では全国、東北で悪化、宮城で改善した。

採算D I の比較では、全国、東北で悪化、宮城では横ばいだった。

本県回答事業者からは「受注見込みが確定できず生産計画が立てづらい」(弱電部品加工)、「部品調達困難により取引先からの受注遅れや延期等で生産工数確保に苦慮」(金属加工)や、「原材料費の高騰や先行き不透明感から、生産性向上への取組がさらに必要」(縫製業)などのコメントがあった。

図 1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)

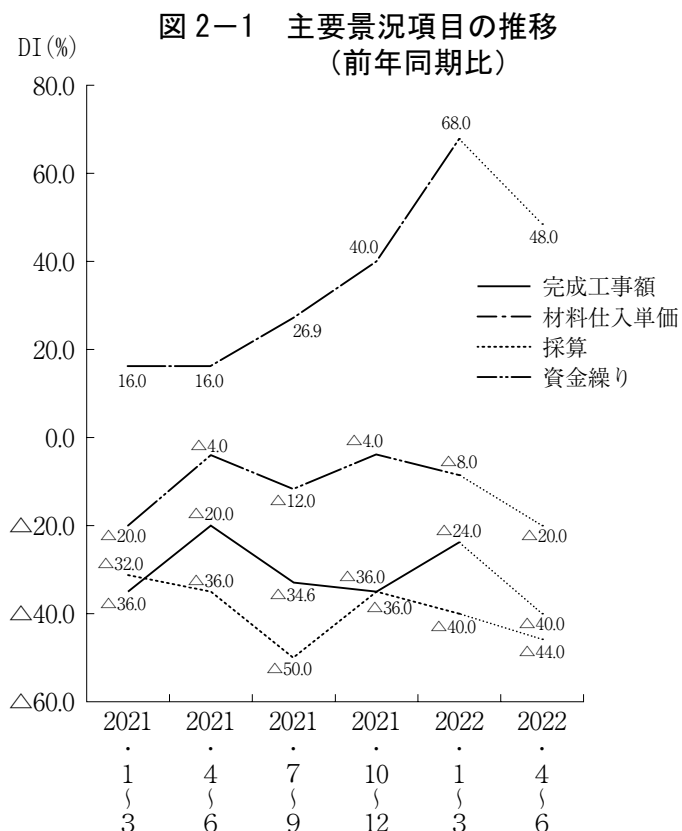


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△24.0（前期△36.0）と12.0ポイント改善、採算D Iでは今期△40.0（前期△36.0）で△4.0ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△8.0（前期△4.0）と△4.0ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期68.0（前期40.0）と28.0ポイント上昇した。



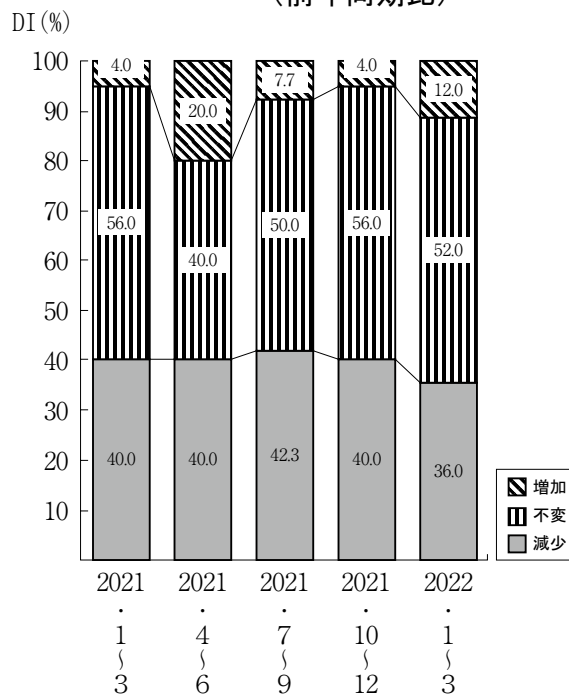
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の12.0%（前期4.0%）で8.0ポイント増加、「減少」と回答した企業は36.0%（前期40.0%）で△4.0ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△24.0（前期△36.0）と12.0ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

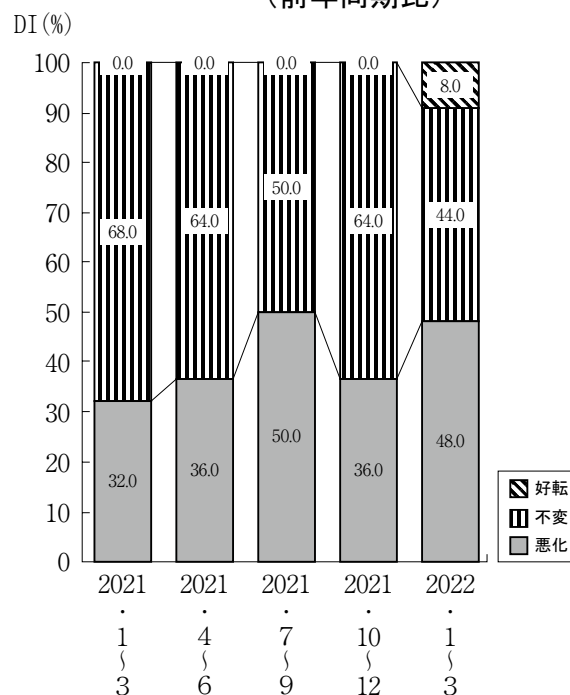


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 8.0% (前期 0.0%) で 8.0 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 48.0% (前期 36.0%) で 12.0 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△40.0 (前期△36.0) と前期より△4.0 ポイント悪化した。

図 2-3 採算の状況
(前年同期比)



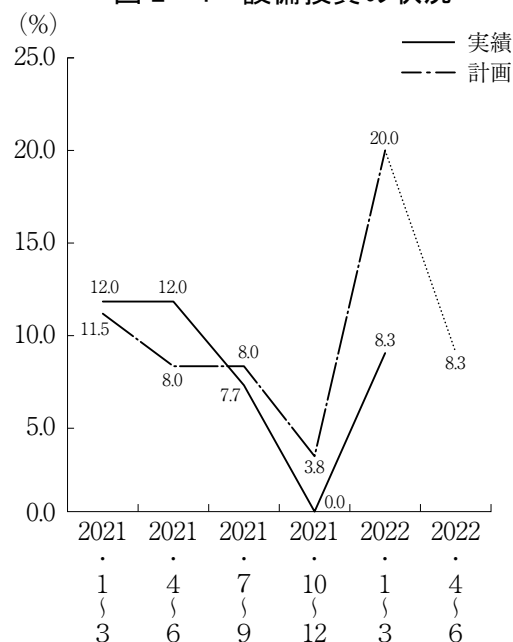
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 8.3% (前期 0.0%) で前期と比べ 8.3 ポイント増加した。

その設備内容は、土地、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 8.3% で、その設備内容は、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図 2-4 設備投資の状況

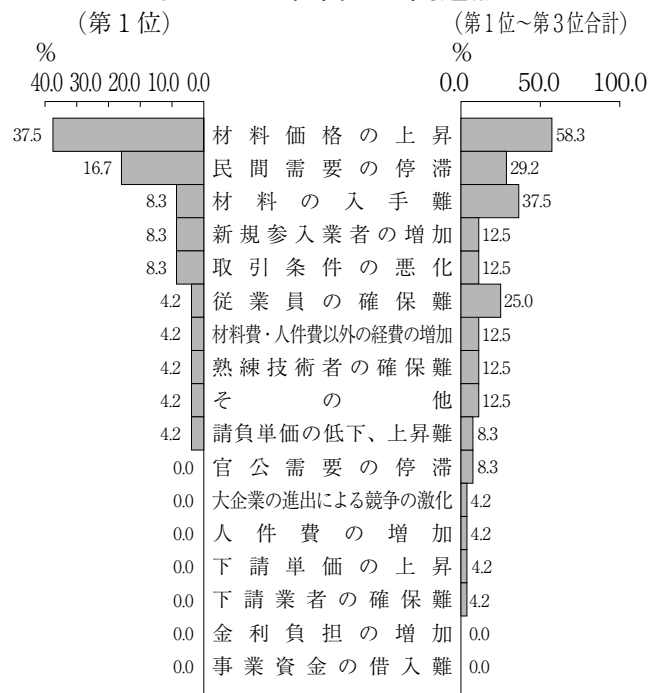


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」が37.5%で、次いで「民間需要の停滞」が16.7%、「材料の入手難」「新規参入業者の増加」「取引条件の悪化」が同率8.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「材料価格の上昇」が58.3%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「材料の入手難」が37.5%、「民間需要の停滞」が29.2%、「従業員の確保難」が25.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



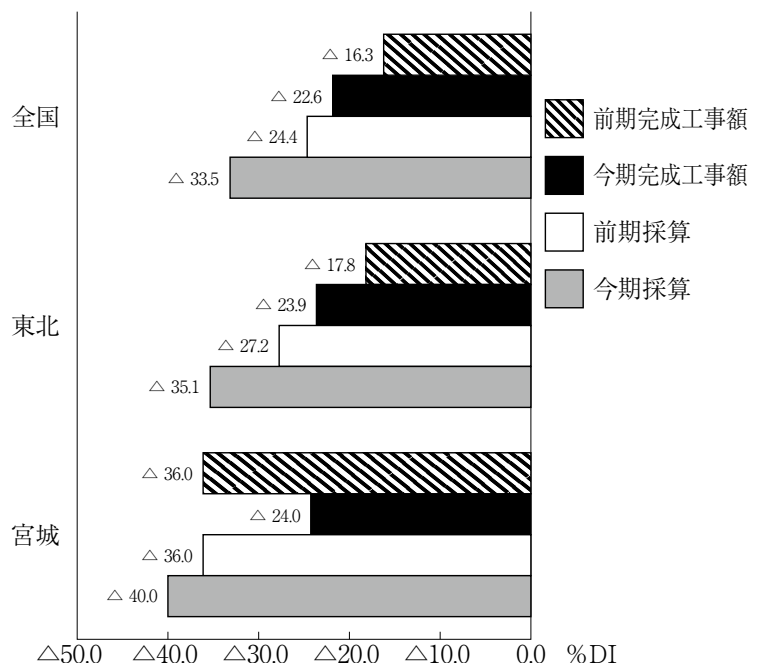
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D I は全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算D I の比較では、全地域（全区分）で悪化した。その悪化度は全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業所からは「県内や近隣現場の減少」や「燃料費や輸送費増によるコスト高への不安」「建築資材等の材料入手困難、仕入単価上昇による経費増、納期遅れが懸念」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



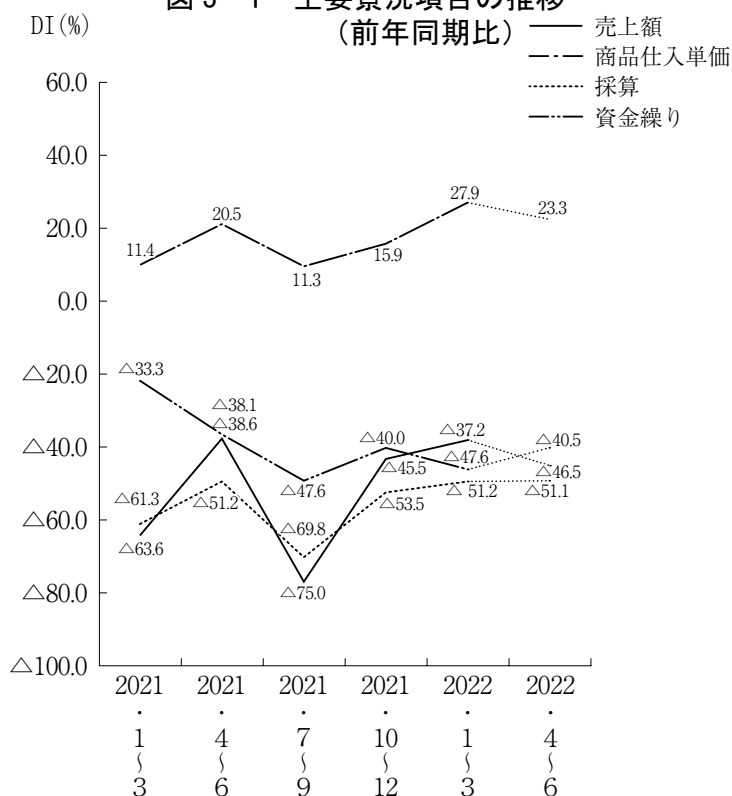
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D I は今期△37.2 (前期△45.5) と前期より 8.3 ポイント改善、採算D I も今期△51.2 (前期△53.5) で 2.3 ポイント改善、資金繰りD I では今期△47.6 (前期△40.0) で△7.6 ポイント悪化した。

商品仕入単価D I は今期 27.9 (前期 15.9) となり、12.0 ポイント上昇した。

図 3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

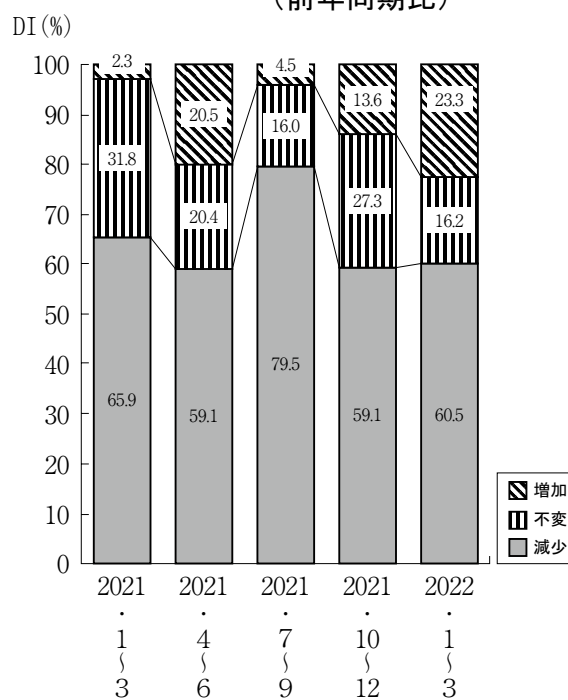
(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の 23.3% (前期 13.6%) で 9.7 ポイント増加、

「減少」の回答は、今期は全体の 60.5% (前期 59.1%) で△1.4 ポイント増加した。

その結果、売上額D I は今期△37.2 (前期△45.5) と前期より 8.3 ポイント改善した。

図 3-2 売上額の状況
(前年同期比)

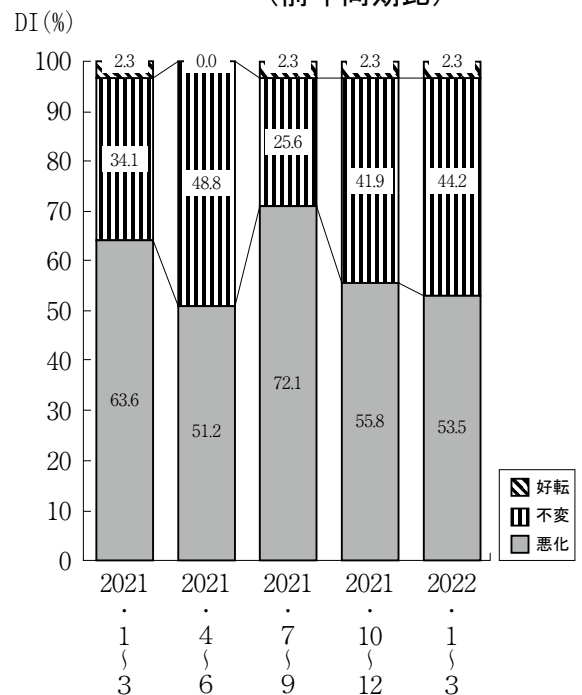


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期2.3%）と横ばい、「悪化」の回答は、今期は全体の53.5%（前期55.8%）で△2.3ポイント減少した。

その結果、採算D Iは今期△51.2（前期△63.6）で、前期より2.3ポイント改善した。

図 3-3 採算の状況
（前年同期比）



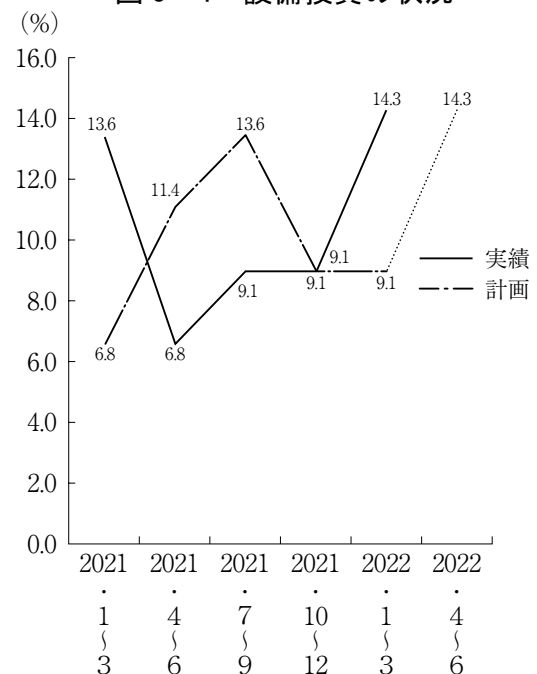
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の14.3%（前期9.1%）で前期と比べ5.2ポイント増加した。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の14.3%で、その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図 3-4 設備投資の状況

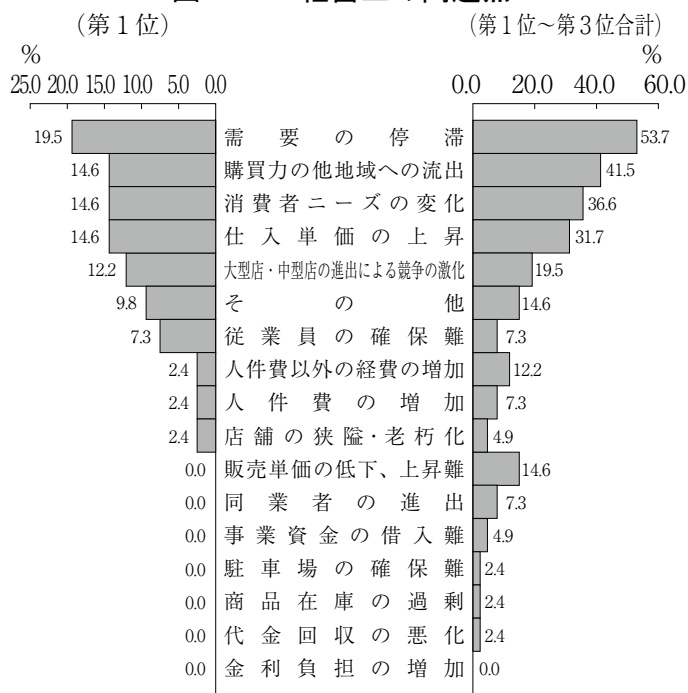


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が19.5%で、次いで「購買力の他地域への流出」「消費者ニーズの変化」「仕入単価の上昇」が同率14.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」が53.7%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「購買力の他地域への流出」が41.5%、「消費者ニーズの変化」が36.6%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



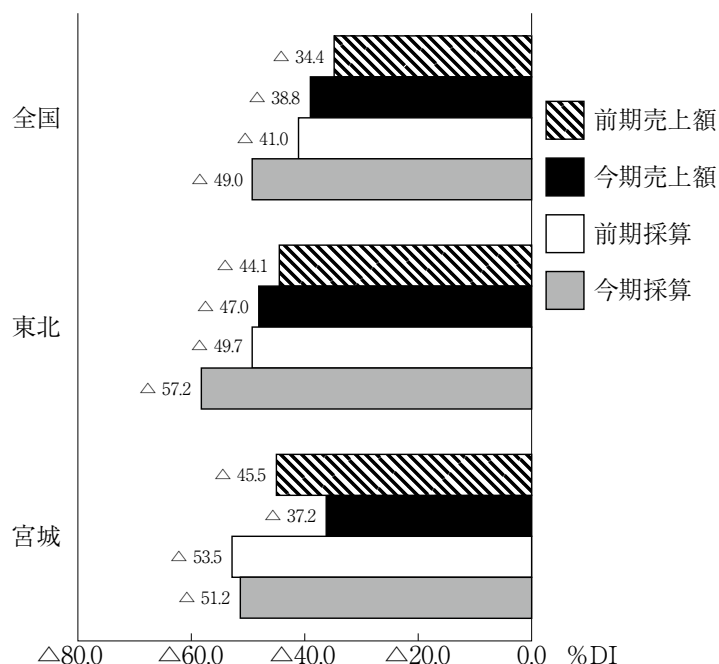
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上D Iは全国、東北で悪化、宮城で改善した。

採算D Iでも同様に、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

本県回答事業所から「昨年は県補助金の活用で売上増となったものの、オミクロン株感染拡大で来店客数減少、先行き不透明」(時計等販売)や「オミクロン株による外出控え、消費者の購買力の流出や購入方法の変化等で売上確保が困難」(書籍販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



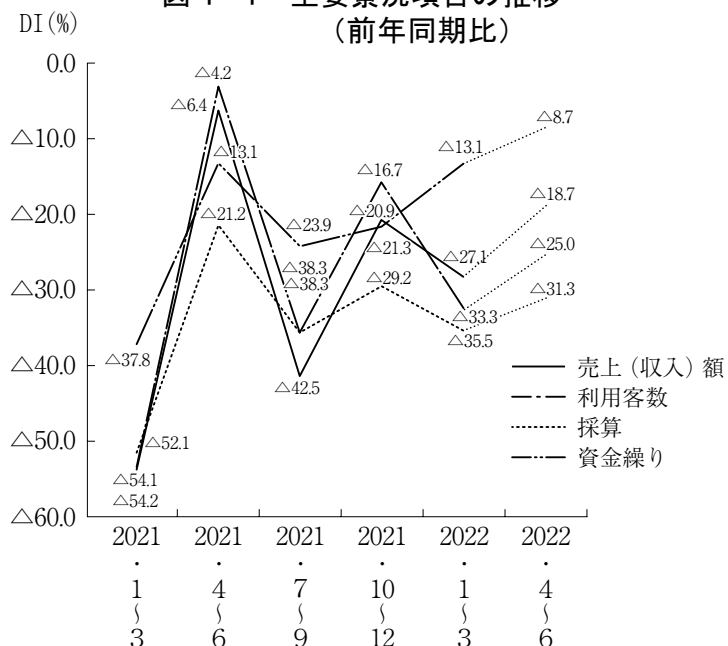
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△27.1（前期△20.9）で△6.2ポイント悪化、採算D Iも今期△35.5（前期△29.2）で△6.3ポイント悪化、資金繰りD Iでは、今期△13.1（前期△21.3）で8.2ポイント改善した。

利用客数D Iは、今期△33.3（前期△16.7）で△16.6ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



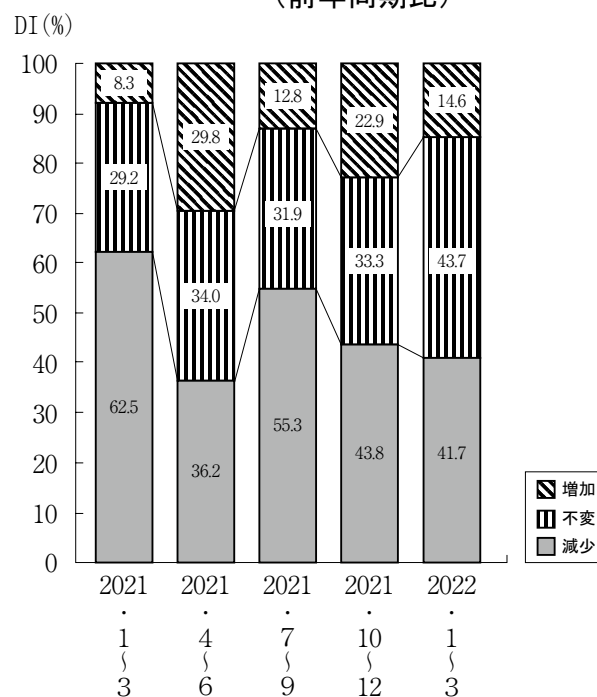
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の14.6%（前期22.9%）で前期より8.3ポイント減少、「減少」の回答は今期41.7%（前期43.8%）で2.1ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△27.1（前期△20.9）で前期より△6.2ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

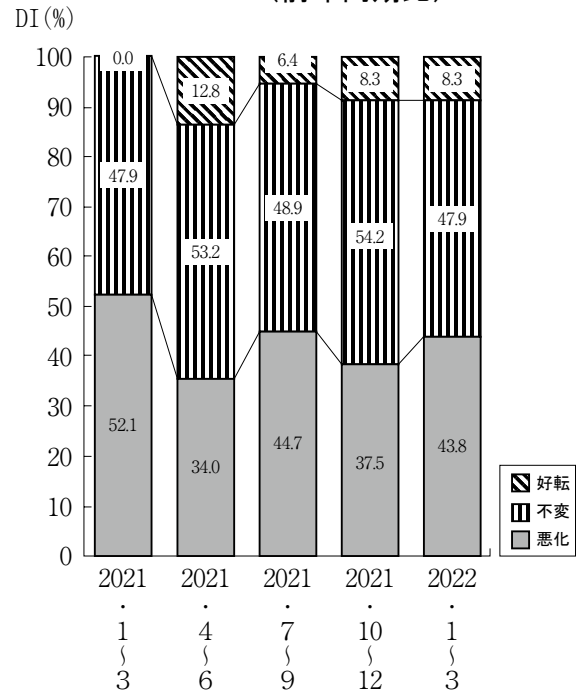


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の8.3%（前期8.3%）で横ばい、「悪化」と回答した企業は今期43.8%（前期37.5%）と△6.3ポイント増加した。

その結果、採算D Iは今期△35.5（前期△29.2）で前期より△6.3ポイント悪化した。

図 4-3 採算の状況
（前年同期比）



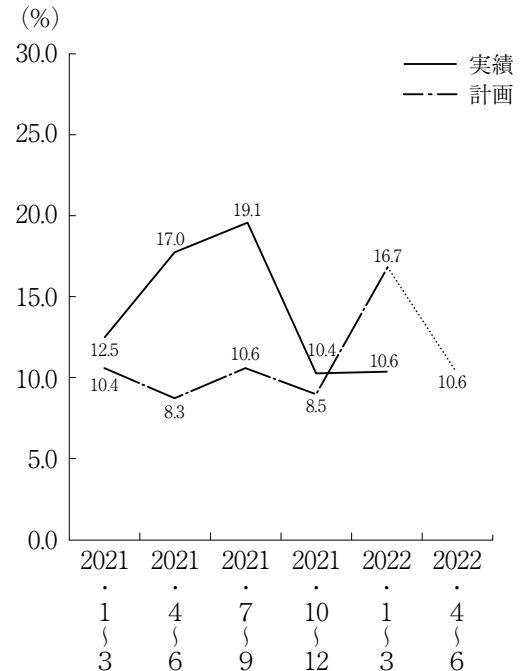
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の10.6%（前期10.4%）で、前期より0.2ポイント増加でほぼ横ばい。

その設備内容は、土地、建物、サービス、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の10.6%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図 4-4 設備投資の状況

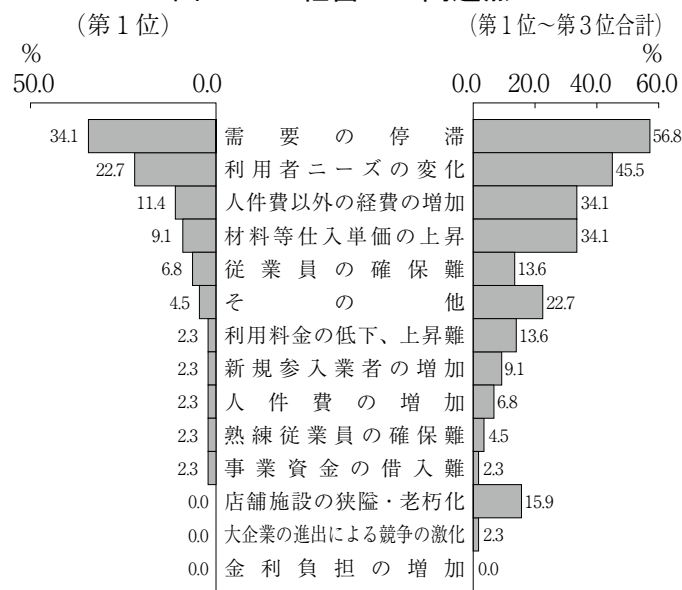


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が34.1%で、次いで「利用者ニーズの変化」が22.7%、「人件費以外の経費の増加」が11.4%が続いた。

重要度第1位から第3位合計では「需要の停滞」が56.8%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「利用者ニーズの変化」が45.5%、「人件費以外の経費の増加」「材料等仕入単価の上昇」が同率34.1%が続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全地域(全区分)で悪化した。その悪化度は東北、全国、宮城の順であった。

採算DIでも全地域(全区分)で悪化した。その悪化度は全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業所からは、「長引く新型コロナの影響と借入金返済で経営状態は厳しい」(宿泊業)とする一方、「ワクチン接種による集客アップに期待」、「昼営業を取り入れた店舗運営や新たな投資で経営の幅を広げていきたい」(飲食業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

